

奨励賞を受賞して

熊本大学大学院生命科学研究部・製剤設計学分野 本山敬一

この度、シクロデキストリン学会奨励賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。改めまして学会長の池田宰先生をはじめ、選考委員ならびに関連の諸先生に厚く御礼申し上げます。また、本賞へご推薦頂きました有馬英俊教授に心より感謝申し上げます。

私は、平成 13 年に熊本大学薬学部を卒業後、平成 18 年に上釜兼人教授（現崇城大学薬学部教授）のご指導のもと博士後期課程を修了致しました。その後、万有製薬株式会社に就職し、製剤の開発・研究業務に従事しましたが、平成 20 年 4 月より熊本大学に籍を移し、有馬英俊教授が牽引される製剤設計学分野に教員として戻って参りました。受賞対象となりました「医薬品としてのメチル化シクロデキストリン誘導体の有効利用」は、シクロデキストリン自身を医薬品として応用することを目的として、メチル化シクロデキストリン誘導体であるジメチルアセチル- β -シクロデキストリン (DMA7- β -CyD) および 葉酸修飾メチル- β -シクロデキストリン (FA-M- β -CyD) が、それぞれ敗血症性ショック抑制剤および抗がん剤として有用であることを示唆した研究であります。本研究を遂行するにあたり、有馬英俊教授をはじめ、多くの先生方にご指導を頂戴したこと、また、学生の皆様に多大なご協力頂いたことに、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

これまで医薬品分野においてシクロデキストリンは、安全性に優れる製剤素材として、薬物の可溶化や安定化、バイオアベイラビリティの改善、苦味の軽減、などに広く使用されています。ところが近年、シクロデキストリン誘導体が、薬理活性を有する薬剤として応用されるケースが報告されております。実際、難治性の小児脂質蓄積病であるニーマンピック・タイプ C 病の治療薬として、ヒドロキシプロピル- β -シクロデキストリンが患児に投与されており、一定の成果が得られています。このように、シクロデキストリンの医療への応用に関して、医薬品を構成する製剤添加物から薬理活性成分へのパラダイムシフトが起こりつつあり、シクロデキストリン自身を医薬品として研究開発することは、今後益々期待されるものと考えられます。薬学に所属する自身にとって、シクロデキストリンの医療への応用研究は極めて重要であると考えております。本受賞に恥じぬよう、今後も自己研鑽に努めながら、日々精進して参りたいと思います。